Hitachi Koki
POWER TOOLS for PROFESSIONAL

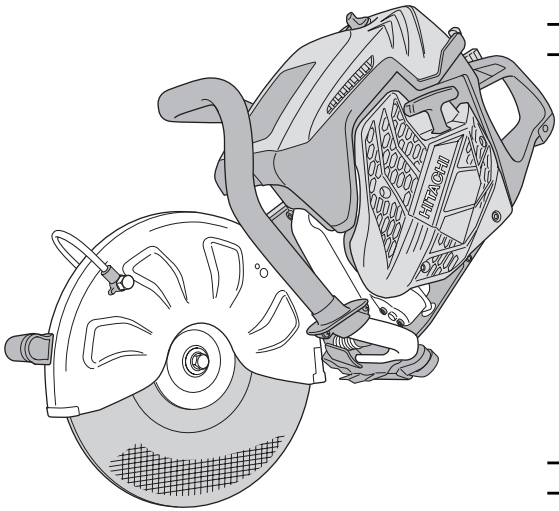
取扱説明書

用途
●コンクリート、石材などの
すじつけ、切断
●金属の切断

陸内協排出ガス自主規制
適合エンジン搭載

日立 エンジン カッタ
CM 75EAP

このたびは日立エンジンカッタをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



燃料混合比	
無鉛ガソリン	2サイクル専用オイル ※
25 ～ 50	1

※JASO規格 FC級オイル

はじめに
警告表示について ……1
シンボルマークについて ……1
エンジン工具の安全上のご注意 ……3
本製品の使用上のご注意 ……8
各部の名称 ……11
仕様 ……12
標準付属品 ……13
別売部品 ……14
使用できる先端工具 ……14

使い方
ご使用前の準備 ……15
ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け(交換)
ホイルガードの角度調整
燃料の準備
給水装置の使い方 ……23
エンジンの始動/停止 ……25
始動方法/停止方法/試運転
作業する ……31
切断の基本

その他
保守・点検・整備 ……34
保管方法 ……44
故障診断 ……45
ご修理のときは ……裏表紙

HITACHI

警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、ご使用時の危険回避などを目的に本機および取扱説明書に下記の表示をしております。
これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。

⚠危険、⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **危険**」、「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠危険 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を即時に負う事が想定される内容のご注意。**

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

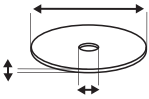
⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

シンボールマークについて

シンボルマーク	意　　味	シンボルマーク	意　　味
	取扱説明書を良く読んで内容を十分理解し、誤った使用で不慮の事故を起こさないように注意してください。		取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意などに従って安全に使用してください。
	引火しやすい燃料を使用するため、本機に火気を絶対に近づけないでください。		保護帽（ヘルメット）、保護メガネ、耳栓またはイヤマフ、防塵マスク、手袋、安全靴など保護具を着用してください。
	本機に火気を近づけないでください。		排気ガスや作業時に発生する粉じんは人体に有害ですので直接吸わないでください。
	本機の近くでたばこを吸わないでください。		キックバックに注意してください。刃物上部での作業はしないでください。

シンボルマーク	意　　味	シンボルマーク	意　　味
	丸のこ刃、チップソーなど指定外の刃物を使用しないでください。		金属の切断時に発生する火花に注意してください。
	ヒビ、割れなどの異常があるダイヤモンドカッターや切断トイシを使用しないでください。	T	キャブレタのアイドリング調整ねじ
	混合燃料を入れてください。	L	キャブレタの低速調整 （工場調整用です。 触れないでください。）
	エンジン停止 （ストップスイッチの脇に表示）	H	キャブレタの高速調整 （工場調整用です。 触れないでください。）
	ストップスイッチの運転側		プライミングポンプ （始動用の手動式燃料ポンプ）
	ストップスイッチの停止側		チョーク （エンジン温度が低いときに使用します。）
	デコンプ （作動させることで始動時のスタータハンドルの引力を低減します。）		使用可能なダイヤモンドカッターや切断トイシの寸法
	刃物回転方向		

エンジン工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 危険

火気に注意してください。

- 燃料の補給はエンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。
- たばこを吸ったり、火気を近づけないでください。
- 燃料がこぼれたら、よくふき取ってください。
- 運転中は燃料タンクのキャップをはずさないでください。
- 燃料、可燃性ガス、その他の可燃物のある場所では使用しないでください。
- 乾燥地帯で使用する場合は、消火用具を準備してください。
  爆発や火災、やけどの原因になります。

⚠ 警告

① 指定された用途以外に使用しないでください。

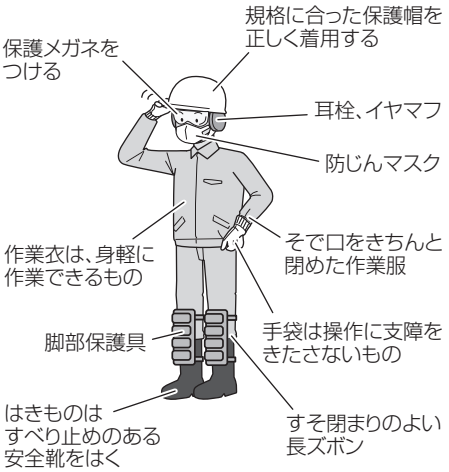
- けがの原因になります。

② 保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。

- 保護具をつけないで作業すると、飛散物が身体に当たるなどけがの原因になります。

③ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているとき、身体の調子が悪いときは、使用しないでください。
- 視覚や敏しょう性、判断力に影響するような酒類、薬物を飲んでいる人は使用しないでください。



⚠警告

④ 作業はゆとりを持って行ってください。また、身体を冷やさないようにしてください。

⑤ 作業者以外、特に子供を近づけないでください。

- エンジン工具に触れさせないでください。
- 作業場へ近づけないでください。

⑥ 子供や取扱説明書をよく読んでいない人、または取扱いに不慣れな人にはエンジン工具を使用させたり、貸さないでください。

- 初めて使用する方は、販売店や熟練者に操作方法、注意事項をよく教わって十分習得し、取扱説明書をよく読んでから使用してください。

⑦ 本製品は、運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなど電子医療機器の動作に影響することがあります。
ペースメーカーなど電子医療機器を装着している方は、本製品を使用する前に医療機器の製造元に使用の可否を相談してください。

⑧ 作業に入る前に作業手順をよく考え、事故が起きないようにしてください。

⑨ 夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。また、雨の中や雨上がりのぬれた場所では使用しないでください。

- 足もとが不安定で、バランスを失い、事故の原因になります。

⑩ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント、先端工具（刃具など）以外のものは、事故やけがの原因になるので、使用しないでください。

⑪ 始動前に先端工具（刃具など）を点検してください。

- 先端工具（刃具など）にひび割れ、傷、曲がりがある物は使用しないでください。
- 先端工具（刃具など）が確実に取付けられているか確認してください。先端工具（刃具など）が割れたり、はずれたりすると事故の原因になります。

⑫ 始動前に各部を点検してください。

- 機体やその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、グリース、燃料漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響するすべての箇所に異常がないか確認してください。
  異常がある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑬ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。

- エンジンを始動する前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⚠警告

⑭ エンジンを始動する場合は注意してください。

- 機体を平らな場所においてください。
- 15 m以内に人や動物を近づけないでください。
- 周囲にかれ草、紙くず、燃料などの可燃物のある場所で行わないでください。
- 燃料を補給した場所から 3 m以上はなれた場所で行ってください。
  不用意な始動は、けがや火災の原因になります。

⑮ ストップスイッチを停止の位置にしたときエンジンが確実に止まることを確認してください。

⑯ スターターハンドルを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合があるので注意してください。

⑰ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足もとをしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- 足もとの不安定な場所では使用しないでください。
  転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

⑱ 電線、ガス管などが設置してある場所では安全に十分注意してください。

⑲ 回転速度を必要以上に上げないでください。

- 回転を上げる場合は急に上げずに、徐々に回転を上げてください。

⑳ 次の場合はエンジンを停止し、先端工具（刃具など）の動きが止まるのを確認してください。

- 使用しない、または修理する場合。
- 作業場所を移動する場合。
- 先端工具（刃具など）、アタッチメント、その他機体の点検、調整、交換などを行う場合。
- 機体に巻き付いたごみや草を取除く場合。
- 作業場所の障害物を取除いたり、作業で発生したごみ、草、切り粉などを運ぶ場合。
- 機体を身体からはなす場合、機体からはなれる場合。
- その他、危険を感じた場合、危険が予想される場合。
  エンジンや先端工具（刃具など）が動いたままでは、思わぬ事故が起こります。

㉑ 他の人を 15 m以内に近づけないでください。
また、二人以上で作業する場合も、 15 m以上はなれてください。

- 飛散物が当たるなど、思わぬ事故の原因になります。
- 他の作業者に危険がないことを確認してから作業してください。
- 呼び笛を準備するなど、他の作業者との連絡方法をあらかじめ決めておいてください。

⚠警告

㉒ **排気ガスに注意してください。**

- 屋内や換気の悪い場所で始動したり、作業しないでください。
- 建物、その他の設備に排気ガスが入らないように注意してください。ガス中毒や窒息の原因になります。

㉓ **作業中は点火プラグキャップ部、高圧コードに触れないでください。**

- 電気ショックを受ける可能性があります。

㉔ **作業中はもとより、エンジン停止後もしばらくはエンジン本体、マフラー、特に排気口などに触れないでください。**

- けがややけどの原因になります。

㉕ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにエンジンを止めて、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**

- そのまま使用すると、けがなど事故の原因になります。

㉖ **誤って機体を落としたり、ぶつけたりしたときは、破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。**

- 破損や亀裂、変形があるとけがや火災の原因になります。

㉗ **機体を車で運搬する場合は、燃料タンクから燃料を完全に抜き取ってください。また、機体が動かないように固定してください。**

- 火災や事故の原因になります。

⚠注意

① **本機は 2 サイクルエンジンですので、混合燃料 25 ～ 50 ： 1（無鉛ガソリン： 2 サイクル専用オイル※）を使用してください。**
※JASO規格　FC級オイル

- ガソリンだけでエンジンをかけたり、混合比を間違えるとエンジンが故障する原因になります。

② **使用後に機体を運搬したり、保管する場合は、先端工具（刃具など）をはずすか、先端工具にカバーをかぶせてください。**

- 先端工具（刃具など）が身体に触れて、けがの原因になります。

③ **機体は注意深く手入れしてください。**

- 安全に効率よく作業していただくために、先端工具（刃具など）は常に手入れし、刃具類はよく切れる状態にしてください。
- 付属品やアタッチメントの交換、機体の手入れ、注油などは取扱説明書に従ってください。

④ **修理は専門店に依頼してください。**

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
  ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**

- ストップスイッチは停止の位置にして保管してください。
- 燃料を抜き取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。

⑥ **燃料はガソリン専用の容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。**

⑦ **警告ラベルが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告ラベルと取換えてください。**

- 警告ラベルはお買い求めの販売店に依頼してください。

⑧ **作業に当たって、その地域の規則や取り決めがある場合はそれに従ってください。**

本製品の使用上のご注意

先にエンジン工具として共通の注意事項を述べましたが、エンジンカッタとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

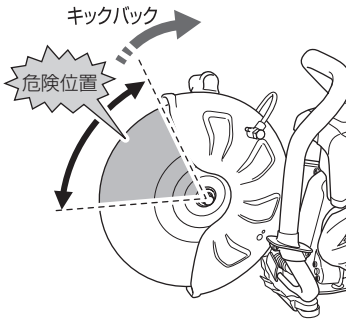
⚠危険

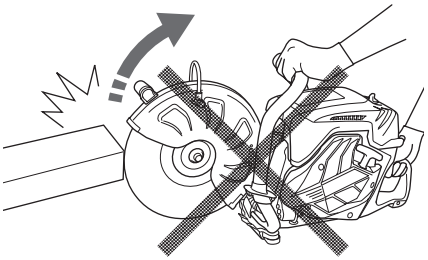
キックバックに注意してください。

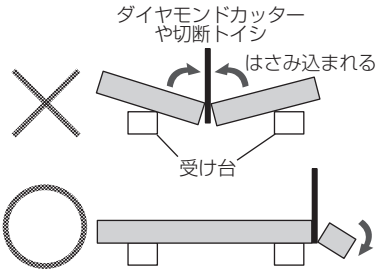
ダイヤモンドカッターや切断トイシの上半分で切断作業を行うと、ダイヤモンドカッターや切断トイシの回転で先端がはね上がるキックバックが発生します。
必ずダイヤモンドカッターや切断トイシの下側で切断してください。

切断中に切断物が閉じてダイヤモンドカッターや切断トイシがはさまると、キックバックが発生することがあります。

切断物の重みでダイヤモンドカッターや切断トイシがはさみつけられないように切断物を固定・支持してください。







⚠警告

① 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。
- 埋設物があると、ダイヤモンドカッターや切断トイシが触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。

② ホイルガードは必ず取付けて使用してください。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシが破損したとき、けがの原因になります。

③ ホイルガードが変形または破損したまま使用しないでください。
- ホイルガードが変形または破損したまま使用した場合、けがの原因になります。

⚠警告

④ **ダイヤモンドカッターや切断トイシ、付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
- 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。

⑤ **ダイヤモンドカッターや切断トイシは、エンジンカッタ専用のものを使用してください。**
- 指定以外のものを使用した場合、けがの原因になります。

⑥ **ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け、取りはずしを行う場合は手袋を着用してください。**
- けがの原因になります。

⑦ **先端工具は、最高使用周速度 80 m/s (4, 800 m/min) 以上の指定の先端工具を取付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。**
- 指定以外のダイヤモンドカッターや切断トイシを使用したり、また側面や上面で研削すると、ダイヤモンドカッターや切断トイシが破壊し、けがの原因になります。(P 14 「使用できる先端工具」参照)

⑧ **切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。**
- 強い反発力が生じ、けがの原因になります。

⑨ **用途に適したダイヤモンドカッターや切断トイシを使用してください。**
- 用途外の先端工具を使用すると、破損し、けがの原因になります。

⑩ **シリカや石綿は人体に有害です。このような成分を含んだ材料を加工するときは、防じん対策をしてください。**

⑪ **周囲の人にも、保護具を着用させてください。**

⑫ **作業前に、人のいない方向にダイヤモンドカッターや切断トイシを向けて空転させ、機体の振動、ダイヤモンドカッターや切断トイシの面振れなどの異常がないことを確認してください。**
- 異常があると、けがの原因になります。

⑬ **新しいダイヤモンドカッターや切断トイシを取付け、はじめてエンジンを始動させるときは、ダイヤモンドカッターや切断トイシの露出部から一時身体を避けてください。**
- ダイヤモンドカッターや切断トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

⑭ **試運転を励行してください。**
- 試運転時間は、P 30 「試運転」の項を参照してください。

⑮ **金属用切断トイシで切断時に、研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷つきやすいものは安全な場所に遠ざけてください。**
また、研削火花を直接手足などに当たらないようにしてください。
- 火災ややけどの原因になります。

⑯ **高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。**
- 本製品や材料などを落としたときなど、事故の原因になります。

⚠警告

⑰ **本体を必ず両手でしっかり持って使用してください。**

⑱ **使用中はダイヤモンドカッターや切断トイシの回転部、切粉の排出部に手や顔などを近づけないでください。**
- 事故の原因になります。

⑲ **使用中は、操作に支障をきたさない手袋を着用してください。ただし、軍手など巻きこまれる恐れがある手袋は着用しないでください。**
- 回転部に巻きこまれ、けがの原因になります。

⑳ **切断途中で、ダイヤモンドカッターや切断トイシを回転させたまま本体を持ち上げないでください。**
その場合、スロットルレバーを放し、回転が完全に止まってから、本体を持ち上げるようにしてください。
- 強い反発力が生じ、けがの原因になります。

㉑ **〔事業者の方へ〕**
ダイヤモンドカッターや切断トイシの取替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令　労働安全衛生法　第59条
労働安全衛生規則　第36条
安全衛生特別教育規程　第2条

⚠注意

① **1日の作業時間(注)は2時間以内にしてください。また、長時間の連続使用を避け、10分作業したら5分以上休憩してください。**
- 疲労は事故の最大の原因です。作業はゆとりを持って行ってください。

（注）1日の作業時間は『仕様』に記載されている「振動3軸合成値」から、厚生労働省の通達で次のように決められています。

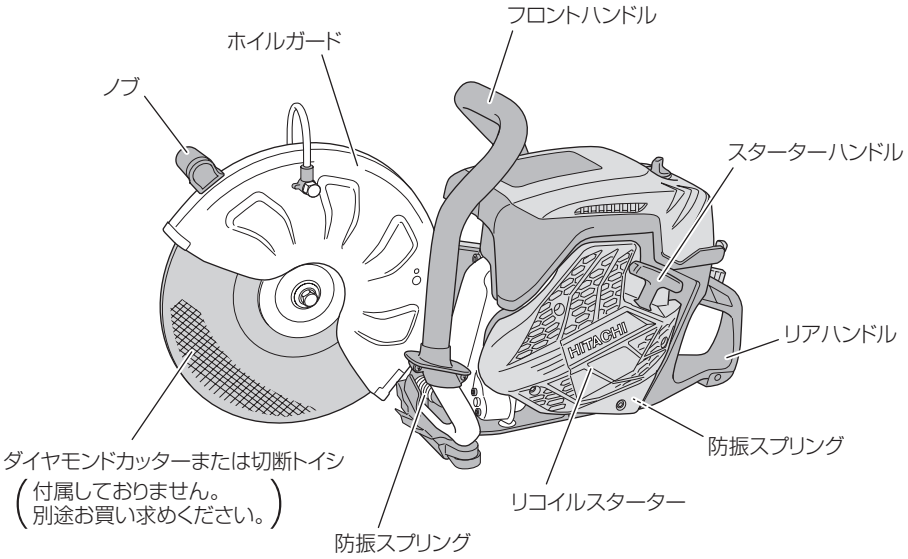
①10 m/s²より小さい場合：2時間以内
②10 m/s²より大きい場合：次の式により算出した時間以内

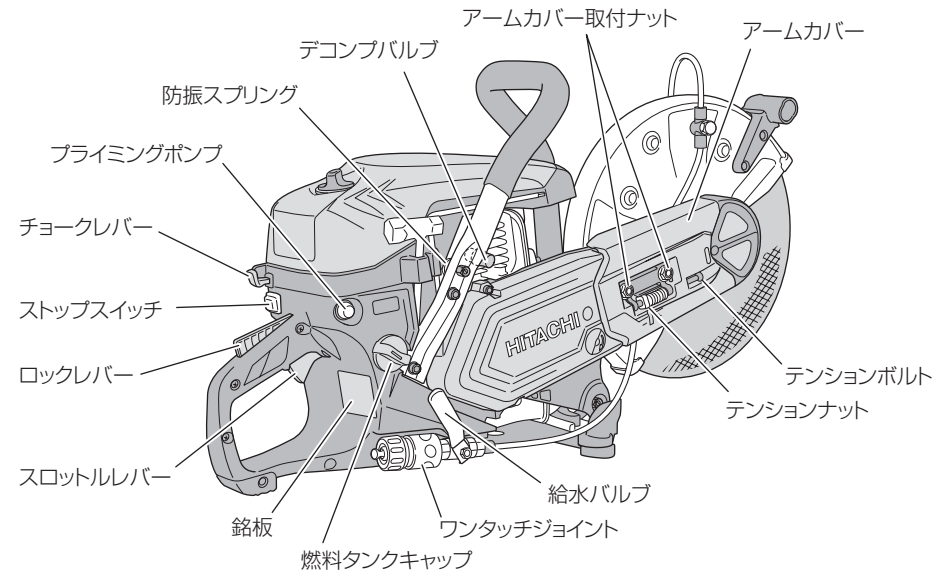
$T = 200 \div (a \times a)$　T：1日の最大作業時間（時間）
a：振動3軸合成値（m/s²）

注 **作業は汚れてもいい服装で作業してください。**
粉じん等で衣服を汚す場合があります。

○騒音防止規制について
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

各部の名称


フロントハンドル
ホイルガード
ノブ
スターターハンドル
リアハンドル
防振スプリング
ダイヤモンドカッターまたは切断トイシ
（付属しておりません。
別途お買い求めください。）
リコイルスターター
防振スプリング


アームカバー取付ナット
アームカバー
デコンプバルブ
防振スプリング
プライミングポンプ
チョークレバー
ストップスイッチ
ロックレバー
スロットルレバー
テンションボルト
テンションナット
給水バルブ
銘板
ワンタッチジョイント
燃料タンクキャップ

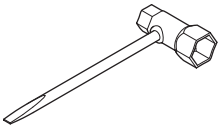
仕　様

項目＼形名		CM75EAP
エンジン	型式	空冷2サイクルガソリンエンジン
	排気量	75.0 mL
	内径×行程	51.5 mm × 36 mm
	最高出力	3.9 kW
	最高回転数	9,800 min^{-1}
	アイドリング回転数	2,300 min^{-1}～2,700 min^{-1}
	使用燃料	混合燃料 無鉛ガソリン：2サイクル専用オイル（25～50：1） 【JASO規格　FC級オイル】
	燃料タンク容量	1,100 mL
	気化器	ダイヤフラム型（プライミングポンプ付）
	点火プラグ	NGK BPMR7A
	始動方式	リコイルスターター式（デコンプ付き）
	エアクリーナー方式	乾式
	停止方法	アース式
	マフラー方式	消音式
動力伝達方式		自動遠心クラッチ、Vリブドベルト駆動
減速比		2.42
先端工具最高回転数		4,200 min^{-1}
スピンドル径		20 mm
ホイルワッシャ外径		101.7 mm
ダイヤモンドカッター寸法		外径305 mm　穴径20 mm （アダプターカラー（銀）使用時：穴径25.4 mmが取付け可能） （アダプターカラー（黒）使用時：穴径30.5 mmが取付け可能）
切断トイシ寸法		外径305 mm　穴径20 mm　厚さ3.5 mm （アダプターカラー（銀）使用時：穴径25.4 mmが取付け可能） （アダプターカラー（黒）使用時：穴径30.5 mmが取付け可能）
最大切込み深さ		ダイヤモンドカッター：　100 mm 切断トイシ：　100 mm
ハンドル		コイルスプリング防振機構付き
寸法（全長×全幅×全高）		630 × 225 × 394 mm
質量		10.4 kg（付属工具を除く）
振動3軸合成値 ※1		フロント：2.2 m/s^2 ※2　リア：2.7 m/s^2 ※2
音圧レベル		99.5 dB (A) ※2
音響パワーレベル		115 dB (A) ※2

※1：振動3軸合成値（周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値）については、当社ウェブサイト　http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/vibration/index.html を参照ください。

※2：ISO 19432:2012規格に基づき測定しています。

標準付属品

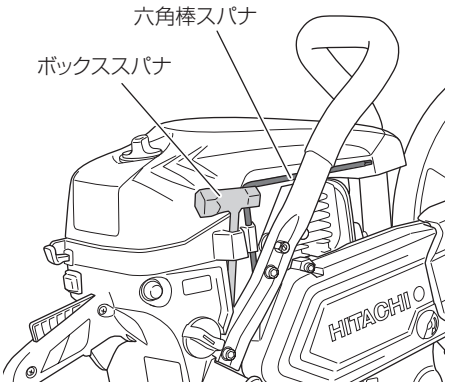
品　名	個　数
ボックススパナ 【19 mm × 13 mm 】 	1 個
六角棒スパナ 	1 個
アダプターカラー（銀） 【内径 25 . 4 mm 刃物用】 **アダプターカラー（黒）** 【内径 30 . 5 mm 刃物用】 （銀）　（黒）	各 1 個
保護メガネ 	1 個

●付属工具の収納

本機は、付属のボックススパナおよび六角棒スパナを本体に収納することができます。

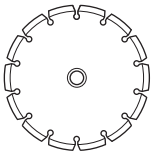
六角棒スパナさし込み口に、六角棒スパナの短い柄側をさし込んでください。
長い柄側がフロントハンドルとクリーナーカバーの間になるようにしてください。

ボックススパナさし込み口に、ボックススパナのマイナスドライバー部をさし込んでください。



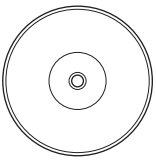
別売部品

ダイヤモンドカッター
（セグメント、寿命重視、コンクリート、
石材用　内径変換リング入り）
【外径 305 mm ×内径 30.5 mm】



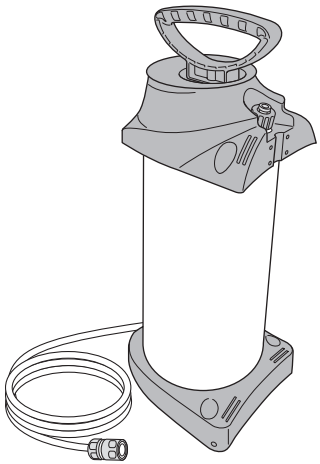
付属のアダプターカラー（黒）を使用します。

ダイヤモンドカッター
（特殊タイプ、ダクタイル鋳鉄管用）
【外径 305 mm ×内径 25.4 mm】



付属のアダプターカラー（銀）を使用します。

給水タンク
（手動加圧式、タンク容量 10 L、
ホース長さ 4 m）



※切断トイシにつきましては、下記に指定する市販の切断トイシを用途に応じてお買い求めください。

使用できる先端工具

市販のダイヤモンドカッター、切断トイシをお買い求めの際は、以下の仕様を満たすエンジンカッタ専用の物を購入してください。

なお、切断トイシは必ず補強（クロス）ありを選択してください。

使用可能なダイヤモンドカッター／切断トイシ

外径	穴径	最高使用周速度
305 mm（ 12 インチ ）	20 mm 25.4 mm※1 30.5 mm※2	80 m/s（4,800 m/min）以上

※1 付属のアダプターカラー（銀）を使用
※2 付属のアダプターカラー（黒）を使用

ご使用前の準備

●ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け（交換）

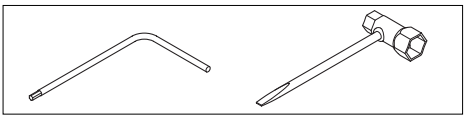
⚠警告

- **エンジンをかけたままダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け、取りはずしをしないでください。**
- **取付ける前にダイヤモンドカッターや切断トイシにひび割れ、変形などがないか、よく調べてから取付けてください。**
- **指定の直径（305 ㎜）より大きいダイヤモンドカッターや切断トイシは使用しないでください。**
  本製品またはダイヤモンドカッターや切断トイシの損傷および飛散により、けがの原因になります。
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシは、必ず指定の品を使用してください。**
  指定以外のダイヤモンドカッターや切断トイシを使用すると、機体に悪影響をおよぼすばかりでなく、思わぬ事故をまねくことがあります。
  （P 14「使用できる先端工具」参照）
- **付属のボックススパナを使用してください。**
  付属のボックススパナ以外の工具を使ってボルトの着脱をすると、締め過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシ取付け後は、忘れずに六角棒スパナ、ボックススパナをはずしてください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け金具類は、本体付属の物をお使いください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付けは、必ず取付け金具類（ホイルワッシャ、フランジワッシャ、取付ボルト）の表面についた汚れやごみを十分に取除いた後に行ってください。**
  汚れやごみがついたまま取付けると、ボルトがゆるむ原因となり、けがの原因になります。
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシを取付ける際は、中心がずれないように確実に締めてください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシを取付け後、手回しして振れや異音がないことを確認してください。**
  振れがあると異常振動やゆるみの原因になり、けがの原因になります。

⚠注意

手袋を着用して作業してください。

注 **取付けには付属の六角棒スパナとボックススパナを使用します。**



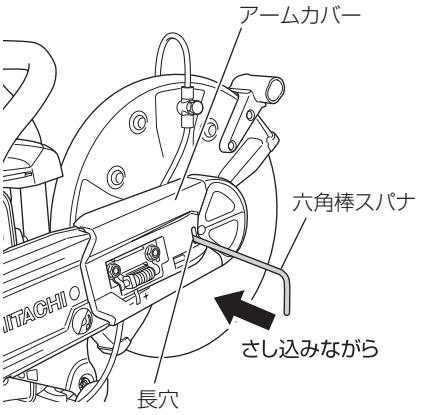
本製品は、工場出荷時にダイヤモンドカッターや切断トイシが付属されておりません。用途に応じて別途お買い求めください。（P 14「使用できる先端工具」参照）

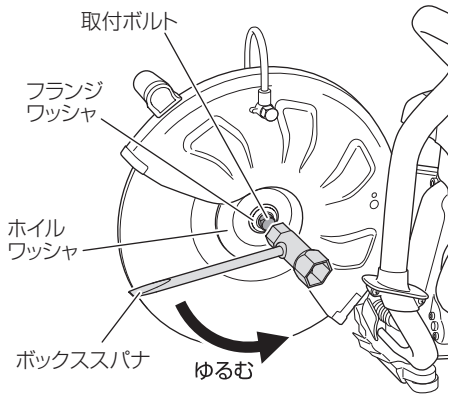
ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け、または新品と交換する際は、以下の手順で行ってください。

取りはずし

1 アームカバーの長穴に付属の六角棒スパナをさし込みながら、付属のボックススパナで反対側の取付ボルトを反時計方向に回すと、六角棒スパナが奥に入り回転が止まります。

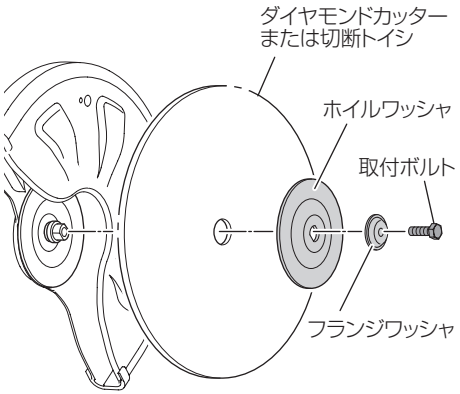
そのままボックススパナを左に回すと、取付ボルトがゆるみます。



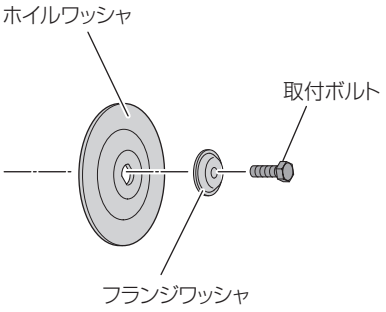


2 取付ボルト、フランジワッシャ、ホイルワッシャを取りはずします。

3 古いダイヤモンドカッターや切断トイシをゆっくり取りはずします。

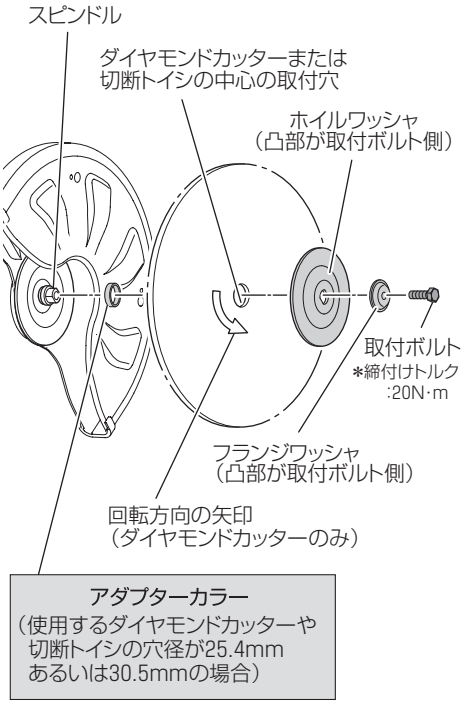


4 取付け金具類（ホイルワッシャ、フランジワッシャ、取付ボルト）に付いている切りくずや汚れ、ごみなどをよく除去します。



5 図のように、各部品の向きに注意して取付けます。

注
- **ホイルワッシャを取付ける際、スピンドルの二面とホイルワッシャの二面を合わせて取付けてください。**
- **ダイヤモンドカッターは回転方向の矢印が図のようになる向きで取付けてください。**



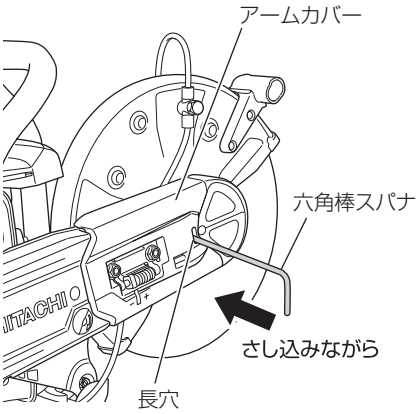
使用するダイヤモンドカッターや切断トイシの穴径が 25.4 mm あるいは 30.5 mmの場合

スピンドルに、標準付属のアダプターカラーを挿入します。

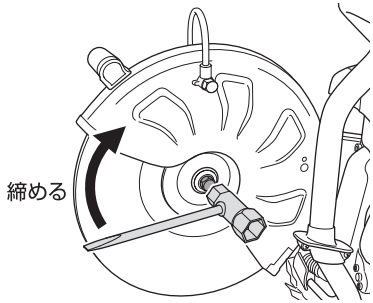
穴径 25.4 mm に対してはアダプターカラー（銀）を、穴径 30.5 mm に対してはアダプターカラー（黒）を使用してください。

アダプターカラーにダイヤモンドカッターや切断トイシの中心の取付穴を確実に合わせた後、ホイルワッシャ、フランジワッシャ、取付ボルトの順で取付けます。

6 六角棒スパナをアームカバーの長穴にさし込んで回り止めし、付属のボックススパナを右に回して、取付ボルトを確実に締付けてください。

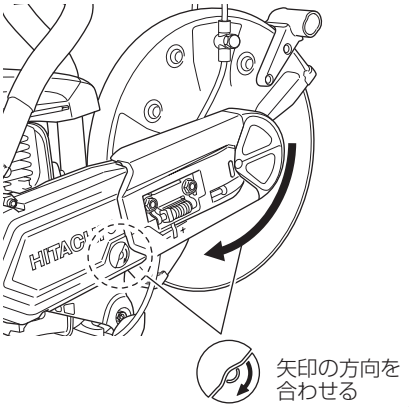


注
- **ご使用前に、ダイヤモンドカッターや切断トイシが確実に取付けられていることを確認してください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシを交換したときは、必ず試運転を行ってください。**
  （P 30「試運転」参照）



ダイヤモンドカッター回転方向の矢印と本体の回転方向矢印が合っている

逆に取付けた場合は、先端工具を取りはずして、再度取付け直してください。



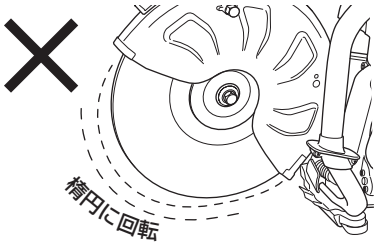
軽く手で回したとき、ダイヤモンドカッターや切断トイシが 楕円に回転しない

楕円に回転するときは、

- ダイヤモンドカッターや切断トイシの丸穴がスピンドルカラーに正しく合っていない
- 穴径が大きいダイヤモンドカッターや切断トイシの取付けに対して、アダプターカラーを使用していない

などの可能性があります。

一度取付ボルトを取りはずして、取付けを確認してからしっかりと締付けてください。



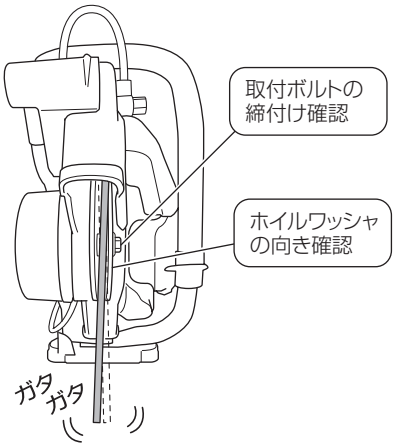
取付け後、ダイヤモンドカッターや切断トイシにガタつきがない

ガタつきがある場合は、

- 取付ボルトの締付けが足りない
- ホイルワッシャの取付け向きが逆になっている

などの可能性があります。

一度取付ボルトを取りはずして、再度しっかりと締付けてください。



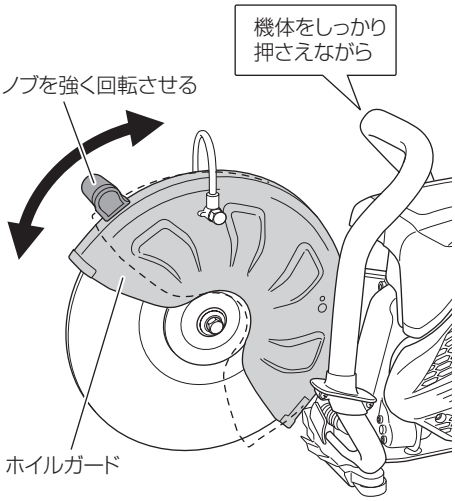
●ホイルガードの角度調整

⚠警告

調整の際は、万一の事故を防止するため、必ずエンジンを止めておいてください。

切断作業中に切断している材料の破片や火花が作業者に当たらないように、ホイルガードの角度を調整してください。

ホイルガードの角度は、機体をしっかり押さえ、ノブを握り、強くホイルガードを回転させて調整してください。



●燃料の準備

⚠危険

- **燃料の補給はエンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。**
- **燃料給油中はタバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけないでください。**
  火災、やけどの原因になります。
- **給油中に燃料をこぼしたときは、良くふき取ってください。**

⚠警告

- **給油前に、カッタ本体、給油用の容器、作業者に帯電している静電気を除去するため、多少湿り気のある地面に接地してください。**
- **給油は風通しのよい場所で行ってください。**
- **エンジンを停止してもマフラーなどが熱くなっていますので、枯草などの燃えやすい所へ置かないようにしてください。**

注
- **燃料は、必要以上に混合しないで、作業に必要な量を準備してください。**
  1ヶ月以上経過すると揮発したり、腐敗してエンジンが故障する原因になります。
- **燃料はガソリン専用の容器に入れて、火気のない場所で保管または運搬してください。**
- **ガソリンだけで絶対に運転しないでください。**
  エンジンが故障する原因になります。
- **給油する前に燃料タンクキャップとその周りをよく掃除し、ごみなどが燃料タンク内に入らないようにしてください。**

混合済みガソリンを使用する場合

使用燃料は日立純正「混合ガソリン」を推奨します。

注 **混合ガソリンは、よく振って(混合して)から給油してください。**
ガソリンと2サイクル専用オイルが分離していることがあります。

⚠警告

混合ガソリンは、容器の内圧が高くなり、こぼれたり、飛び散る場合がありますので、キャップ、中栓をゆっくり開けガスを抜いてから使用してください。

自分で混合する場合

市販ガソリンを使用される場合は、25～50 :1(無鉛ガソリン: 2 サイクル専用オイル※) の割合で混合の上、使用してください。

※JASO規格　FC級オイル

混合量は表を参考にしてください。

別容器でよく混ぜてから燃料タンクに入れてください。

こぼれないように、燃料タンクの口元一杯まで入れないで 8 分目程度にしてください。

2 サイクル専用オイルの混合量

ガソリン(L)	2 サイクル専用オイル※ (mL)	
	50 : 1	25 : 1
0.5	10 ～ 20	
1	20 ～ 40	
2	40 ～ 80	
4	80 ～ 160	

※JASO規格　FC級オイル

燃料を入れるときは

混合燃料を燃料タンクに入れてください。急に開けると内圧でタンク内に残っていた燃料が吹き出す場合がありますので、タンクキャップを開けるときは、ゆっくりと行ってください。

注 **燃料タンクキャップは、確実に取付けてください。**
給油後に、キャップから燃料が漏れていないことを確認してください。

給水装置の使い方

本機には給水装置が付いています。
コンクリートの切断など粉じんが多く発生する作業を行う際、給水装置を使用します。

水道を使用する場合

1 水道の蛇口から、機体までの距離に応じた長さの市販の水道ホースをご用意ください。

【耐圧タイプ（メッシュ入り）
内径 14 ～ 15 mm、外径 20 mmまで
（肉厚 2.3 mm以上、 3.0 mm未満）】

市販のホースバンドを使用するなど蛇口の形状に合った接続方法で、しっかりと蛇口と水道ホースを接続します。

注
- **内径 14 mm以下の水道ホースは、使用しないでください。**
  ワンタッチジョイントに取付かないばかりでなく、取付けても逆止弁が動かなくなるため水が出ません。
- **水道ホースは、ホースリールに巻かれた状態で使用しないでください。**
  水道水の水量が足りなく、水が出にくくなる場合があります。

2 機体から、ワンタッチジョイントをはずします。
ワンタッチジョイントは、引くとはずれます。

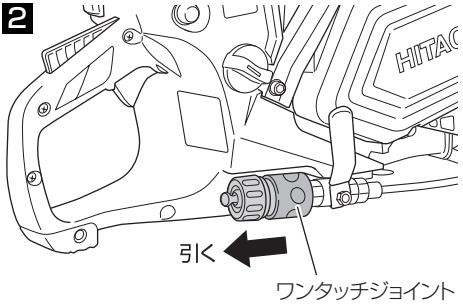
3 ワンタッチジョイントのリングをゆるめ、取りはずします。

4 水道ホースにリングを通して、水道ホースの端をワンタッチジョイントの接続部の奥に突き当たるまでさし込みます。

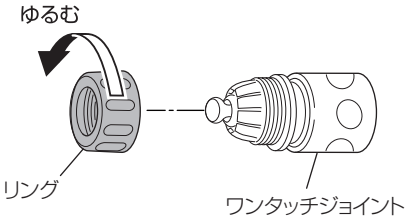
⚠ 警告

本機を水道に接続する際は、必ずエンジンを止めておいてください。
思わぬ事故の原因になります。

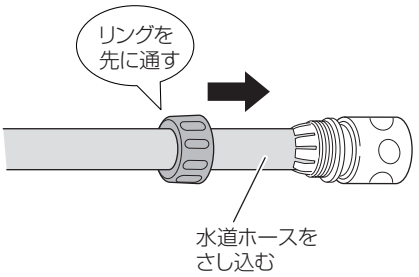
2



3



4



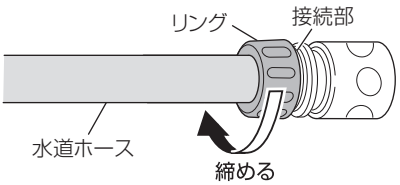
5 リングを回して確実に締付けてください。
（目安：締付け後、ワンタッチジョイントの接続部がリングの端から見える程度）

6 ワンタッチジョイントを、注水コネクタに「カチッ」と音がするところまで、さし込んでください。
水道ホースを 2 ～ 3 回引っ張ってはずれないことを確認します。

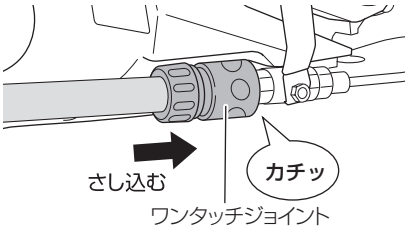
7 水道の蛇口を開きます。

8 機体の給水バルブを開くと、ホイルガード内のバルブより給水が開始されます。

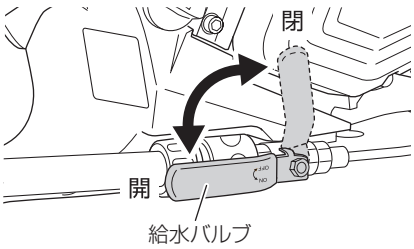
5



6



8



給水タンク（別売）を使用する場合

本機は、別売の給水タンクを接続して使用することができます。

1 機体から、ワンタッチジョイントをはずします。

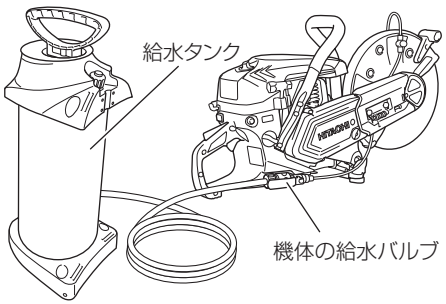
注 **機体に付いているワンタッチジョイントは使用しませんので、紛失しないように保管しておいてください。**

2 給水タンクのワンタッチジョイントを、機体の給水コネクタに「カチッ」と音がするまで、さし込んでください。

3 機体の給水バルブを開くと、ホイルガード内のバルブより給水が開始されます。

⚠ 警告

本機を給水タンクに接続する際は、必ずエンジンを止めておいてください。
思わぬ事故の原因になります。



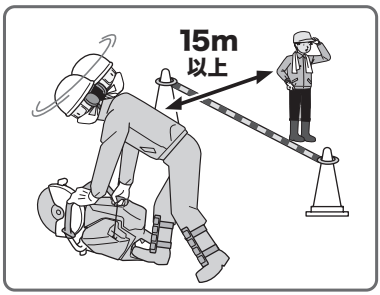
注 **給水タンクの使用方法については、給水タンクの取扱説明書をよくお読みください。**

エンジンの始動/停止

⚠警告

エンジンを始動する場合は次のことに注意してください。

- **機体を平らな場所においてください。**
- **15 m以内に人や動物を近づけないでください。**
- **周囲に落葉、かれ草、おがくず、燃料などの可燃物のある場所で行わないでください。**
- **燃料を補給した場所から3 m以上はなれた場所で行ってください。**
  不用意な始動は、けがや火災の原因になります。
- **エンジンが始動すると、ダイヤモンドカッターや切断トイシが回転します。**
  ダイヤモンドカッターや切断トイシが地面や障害物に触れていないことを確認してください。



- **室内・トンネル内・ビニールハウス内など、換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。**
  人体に有害な一酸化炭素中毒になる恐れがあります。
- **運転中および停止直後は、エンジン本体やマフラー周辺部に触れないでください。**
  やけどの恐れがあります。
- **運転中は点火プラグやプラグコードに手を触れないでください。**
  感電によるショックを受けることがあります。

エンジン始動の予備知識

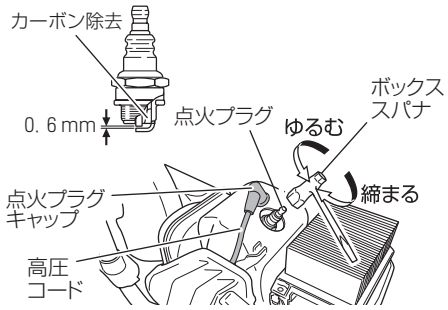
エンジンがかかりにくいときは…

チョークレバーを始動（閉：⊢ ）の位置のまま、スターターハンドルを何度も引き続けると、点火プラグの電極が燃料をかぶってエンジンが始動しなくなることがあります。

このような場合は、点火プラグを取りはずして、電極を乾かしてから、始動操作を行ってください。

（詳細はP 40「保守・点検・整備」の「点火プラグ」参照）

注 エンジンが高温のときは、充分に冷めてから点火プラグをはずしてください。



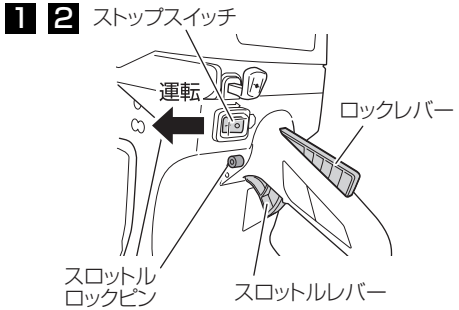
●始動方法

エンジンが冷えている場合
- ●初めて使うとき
- ●しばらく保管してから、再び使用するとき

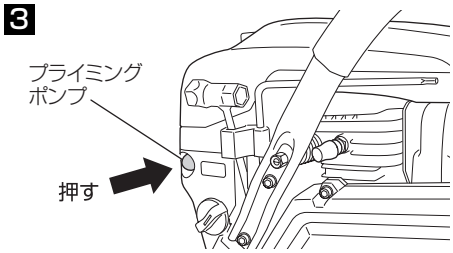
1 ストップスイッチを「運転：┃　」の位置にしてください。

2 スロットルを次の手順で「半開」に固定してください。

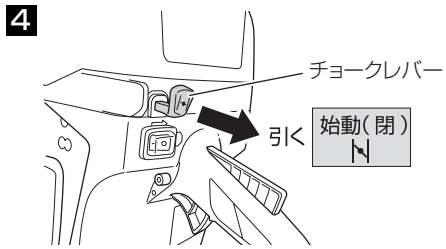
①ロックレバーを押したまま
②スロットルレバーを引き
③スロットルロックピンを押す。
④スロットルレバーとロックレバーから手を放す。



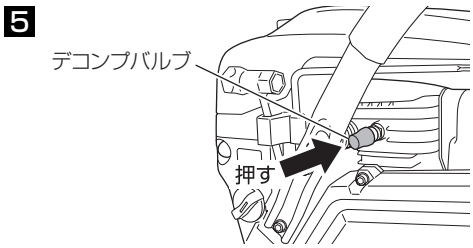
3 プライミングポンプが燃料で満たされるまで繰り返し押してください。（目安 10 回位）



4 チョークレバーを引いて、始動（閉：⊢┤）の位置にしてください。



5 デコンプバルブを押してください。デコンプバルブは、エンジンが始動すると自動で元の位置に戻ります。



使い方

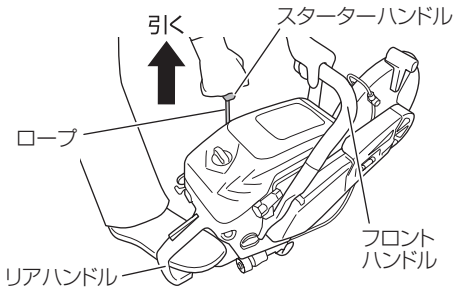
6 安定の良い場所に機体を置き、左手でフロント（前）ハンドルを握り、右足でリア（後）ハンドルの下側を踏んで機体をしっかり押えます。

⚠警告

- **エンジン始動と同時にダイヤモンドカッターや切断トイシが回転しますので注意してください。**
- **スターターハンドルを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合がありますので注意してください。**

7 スターターハンドルを軽く引き出し、抵抗を感じたら強く引いてください。
引いた後、スターターハンドルを手放さないで、ゆっくり戻してください。

6 **7**

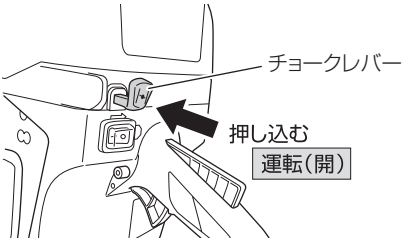


注 **ロープは最後まで引ききらないでください。**

8 初爆（ポン、ポンという爆発音）がするまで、数回引いてください。
初爆がしたら、チョークレバーを押し込んで運転（開）の位置に戻してください。

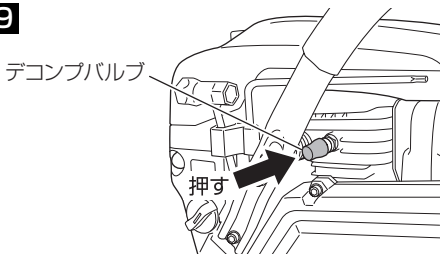
注 **チョークレバーを始動（閉：⊢ ）の位置のままスターターハンドルを引き続けると、燃料を吸いこみすぎて始動しにくくなります。**

8



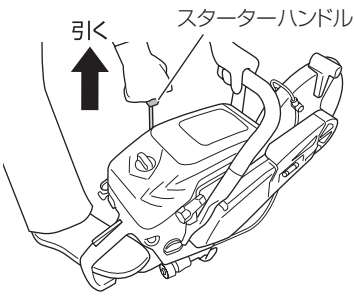
9 デコンプバルブを押してください。

9



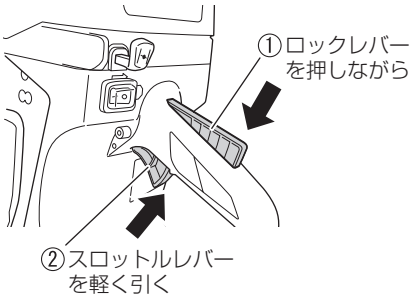
10 再度スターターハンドルを引いて、エンジンを始動してください。

10



11 始動したら、ロックレバーを押しながら、スロットルレバーを軽く引き、スロットル「半開」を解除してください。

11



12 使用前に、スロットルレバーを放した低速運転（アイドリング運転）で2～3分間暖機運転をしてください。

エンジンが暖まっている場合

●燃料給油など、一時小休止後

エンジンが暖まっている場合は、チョークレバーの操作をしないで、スターターハンドルを引いて始動します。

エンジンが始動しないときは、「エンジンが冷えているとき」の **1** からの手順で始動操作を行ってください。

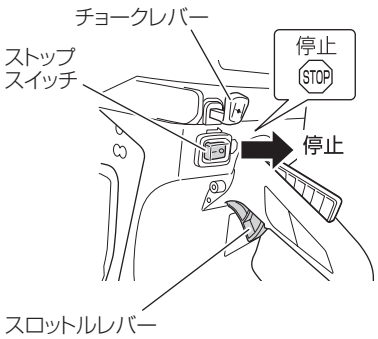
●停止方法

⚠警告

- 緊急時は、直ちにエンジンを停止してください。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシは、エンジン停止後も慣性でしばらく回ります。完全に停止するまでダイヤモンドカッターや切断トイシに触れないでください。
- スロットルレバーを放して低速運転（アイドリング運転）にしたとき、ダイヤモンドカッターや切断トイシの回転が止まるのを確認してください。
  ダイヤモンドカッターや切断トイシの回転が止まらない場合は、アイドリングの回転数が低くなるように調整してください。（P 39「気化器」参照）
- 機体からはなれるときは、必ずエンジンを停止してください。
- エンジン停止後もマフラーが熱いので、枯草など燃えやすい所へ置かないよう注意してください。
- 移動時または機体を地面に置くときは、思わぬ事故防止のため、エンジンを停止してください。

1 スロットルレバーを放して、低速運転（アイドリング運転）にします。

2 ストップスイッチを「停止（STOP）：O」の位置にすると、エンジンが停止します。



注 **ストップスイッチやリード線などの故障で、ストップスイッチを「停止（STOP）」の位置にしてもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを引いて始動（閉：⊢）の位置にしてください。エンジンは失速し、停止します。**
ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

●試運転

⚠警告

- **ダイヤモンドカッターや切断トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。**
  異常があるとダイヤモンドカッターや切断トイシが破損し、けがの原因になります。
- **使用期限の記載されている切断トイシは、使用期限内であること確認してから使用してください。**
  期限の過ぎた切断トイシは、破損する恐れがあります。
- **エンジンを始動させるときは、ダイヤモンドカッターや切断トイシが加工材などに接触していないことを確認してください。**
  接触したまま始動させると、ダイヤモンドカッターや切断トイシが破損することがあり、けがの原因になります。
- **新しいダイヤモンドカッターや切断トイシを取付け、はじめてエンジンを始動させるときは、ダイヤモンドカッターや切断トイシの露出部から必ず体をさけてください。**

作業前に人のいない方向にダイヤモンドカッターや切断トイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は
　ダイヤモンドカッターや切断トイシ交換のとき……3分間以上
　その日の作業始めのとき……1分間以上

作業する

⚠ 警告

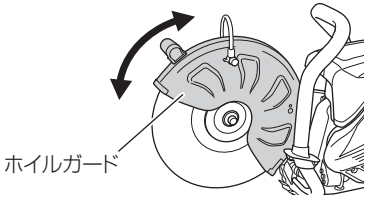
- 使用前に、必ずダイヤモンドカッターや切断トイシを点検してください。
  ヒビ、割れ、曲がりがある場合は使用しないでください。
- 保護具を着用してください。
- 他の人を 15 m以内に近づけないでください。また、二人以上で作業する場合も、15 m以上はなれてください。
- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所でエンジンを始動したり、作業をしないでください。
- 使用中にダイヤモンドカッターや切断トイシが止まったり、異音を発したときなどは、直ちにエンジンを止めてください。
- まっすぐ切断してください。ジグザグ切断、曲線切り、側面使用、傾斜切断などには使用しないでください。
  切断中に本機をこじったり強く引きすぎると、反発力を受け、けがの原因になります。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシを横向きにした使い方はしないでください。
  けがの原因になります。
- 必ずダイヤモンドカッターや切断トイシの下側で切断してください。
- 使用中は、必ず両手でしっかり持って使用してください。また、常に足元をしっかりさせ、スリップなどで身体のバランスを失わないように十分注意して使用してください。
- 使用中は、ダイヤモンドカッターや切断トイシの回転部、切粉の排出部に手や顔などを近づけないでください。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシが足元に近づくような機体操作はしないでください。
- 本機は胸より低い位置で使用してください。本機が肩より高くなるような姿勢で使用しないでください。
- 切断直後の金属材料、ダイヤモンドカッターや切断トイシは高温になっていますので、触れないでください。
  やけどの原因になります。
- スロットルレバーを放してもダイヤモンドカッターや切断トイシの回転が止まらないときは、使用しないでください。
- エンジンをかけたまま、本機を放置しないでください。
- 持ち運びの際は、必ずエンジンを停止し、ダイヤモンドカッターや切断トイシが回転していないことを確認してください。

1 作業場所を整備する

- 切断する材料の近くにダイヤモンドカッターや切断トイシが触れてしまう物があるときは、取除いてください。
- 作業場所につまずく可能性がある障害物があるときは、取除いてください。取除く事のできない物は、あらかじめ目印を付けて注意するようにしてください。

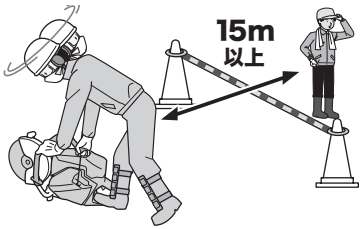
2 ホイルガードの角度調整をする

切断作業に応じ、材料の破片や火花が作業者に当たらないようにホイルガードの角度を調整してください。
(P 20「ホイルガードの調整」参照)



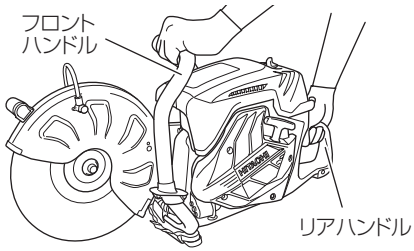
3 エンジンを始動する

- 周りに人がいないことを確認してから始動してください。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシが地面や障害物に触れていないことを確認してください。
(P 25「エンジンの始動/停止」参照)



4 機体を保持する

左手でフロント(前)ハンドル、右手でリア(後)ハンドルを持ってください。



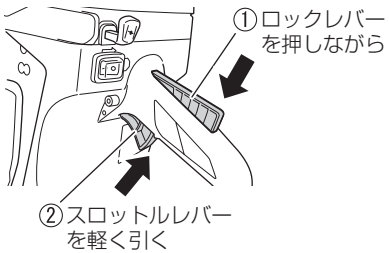
5 試運転をする

作業前に人のいない方向にダイヤモンドカッターや切断トイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。(P 30「試運転」参照)

6 切断する

ロックレバーを押しながら、スロットルレバーを引いて、ダイヤモンドカッターや切断トイシを回転させて切断します。

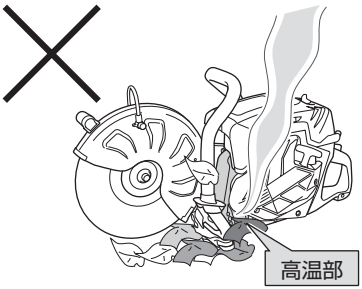
注 スロットルレバーは、ロックレバーを押しこんだ状態でしか引けない構造になっています。

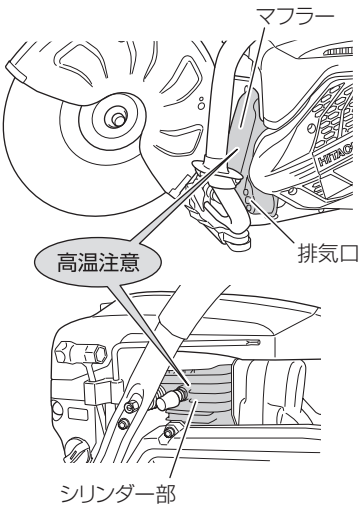


P 33「切断の基本」をよくお読みのうえ、切断作業を行ってください。

⚠警告

- **使用中・使用後は、マフラーや排気口、シリンダ部は高温になるので、触らないでください。**
- **使用中・使用後は、落ち葉や枯れ草、おがくず、燃料など、燃えやすい物の近くに置かないでください。**





●切断の基本

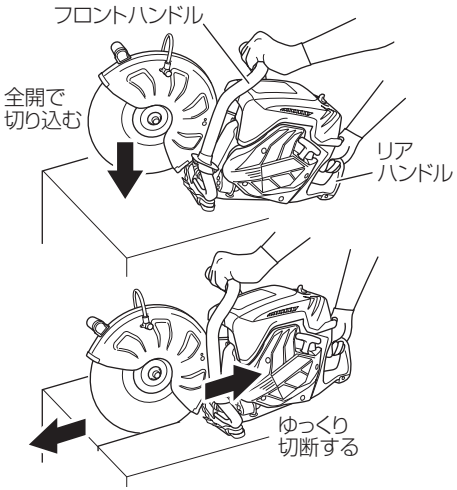
⚠警告

ダイヤモンドカッターや切断トイシを強く押し当てて使用しないでください。
エンジンの回転数が下がり、切断能率が著しく低下するばかりでなく、強い反発力を生じたり、ダイヤモンドカッターや切断トイシが破損し、けがの原因となります。

1 全開にして回転が高速に安定してから、切断材料に切り込みを入れます。

2 その後、まっすぐ切断してください。

- ダイヤモンドカッターや切断トイシを軽く前後に動かして、熱を分散させ温度があまり上がらないようにしてください。
- 1回の切込み深さは 15 ㎜以内とし、それ以上のときは、数回に分けて切込んでください。



保守・点検・整備

使用前の点検・整備について

製造時の振動レベルを劣化させないため、作業を開始する前に必ず機体各部の点検・整備を行い、異常がないことを確かめてください。

①防振スプリングの破損、および固定部のゆるみ、破損
②フロントハンドル、リアハンドルの変形、破損
③フロントハンドル、リアハンドル取付部のゆるみ、破損
④各部のボルト、ナットなどのゆるみ、破損

毎日の点検・整備

[作業前]

- ダイヤモンドカッターや切断トイシを締付けている取付ボルトにゆるみがないか点検する。
- 各部のボルト、ナットなどにゆるみがないか点検する。
- 機体やその他の部品に損傷がないか点検する。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップなどから燃料漏れがないか点検する。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシにヒビ、割れ、曲がりがないか点検する。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシが確実に取付けられていることを点検する。
- ベルトがゆるんでいないか点検する。

[作業後]

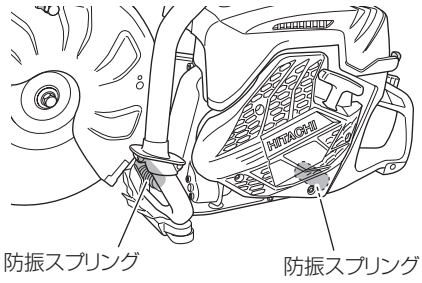
- プレフィルタを掃除する。

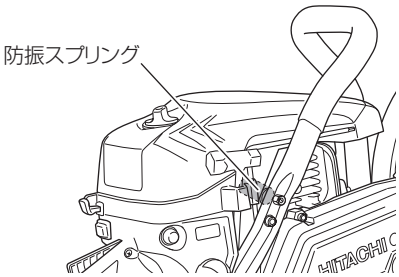
⚠警告

- **保守・点検・整備の際は、必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。また、点火プラグキャップをはずしてください。**
- **保守・点検・整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。**
- **不具合箇所が発見されましたら、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

毎月の点検・整備

- 点火プラグを清掃する。
- マフラーの排気口を清掃する。
- アームやリコイルスターターに付着した切粉やごみを除去する。
- ペーパーフィルタ、ナイロンフィルタを掃除する。



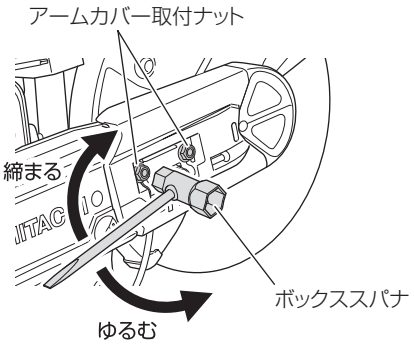


●ベルトの張り調整

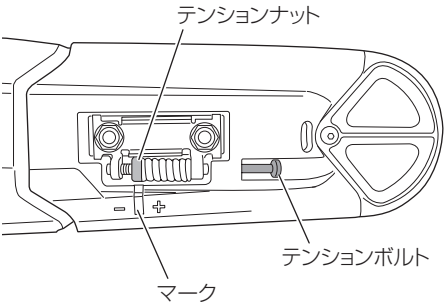
ベルトがゆるんでいると、ダイヤモンドカッターや切断トイシが十分な回転を得られず切断能力が低下したり、簡単に停止したりします。
このような場合は、次の手順でベルトの張り調整を行ってください。

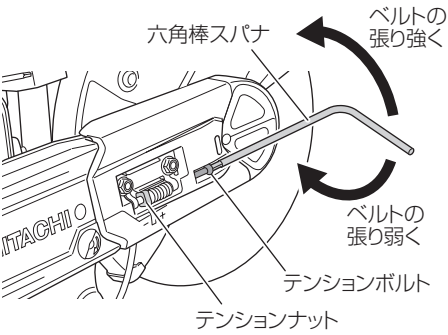
1 ベルトの張り調整をする際は、アームカバー取付ナットがゆるんだ状態で行います。

付属のボックススパナで、アームカバー取付ナット（2個）を反時計方向に約1回転ゆるめてください。



2 付属の六角棒スパナでテンションボルトを回して、テンションナットがアームカバーのマークに合うように移動させてください。





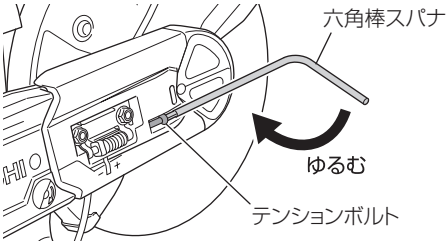
3 アームカバー取付ナット（2個）を付属のボックススパナでしっかりと締めてください。

●ベルトの交換

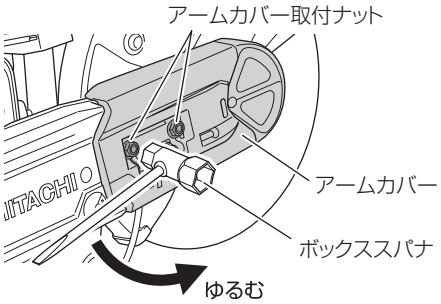
ベルトの張りを調整しても回転が上がらない場合や、作業中に簡単に停止する場合、あるいはベルトが切断した場合は、次の手順でベルトを交換してください。

ベルトのはずし方

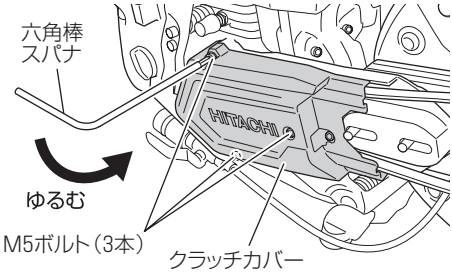
1 付属の六角棒スパナで、テンションボルトを回して充分にゆるめてください。



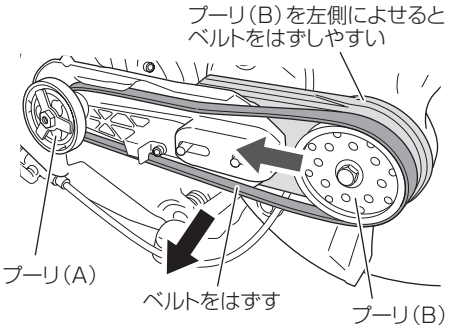
2 付属のボックススパナで、アームカバー取付ナット（2個）をはずした後、アームカバーをはずしてください。



3 付属の六角棒スパナでM５ボルト（３本）をゆるめ、クラッチカバーをはずしてください。

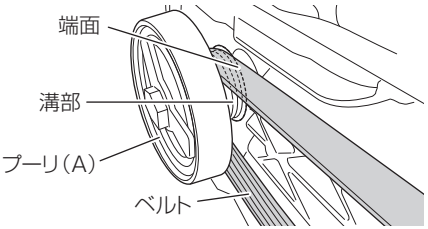


4 プーリ（B）を左側によせてベルトを弛ませ、ベルトをプーリ（A）とプーリ（B）からはずしてください。



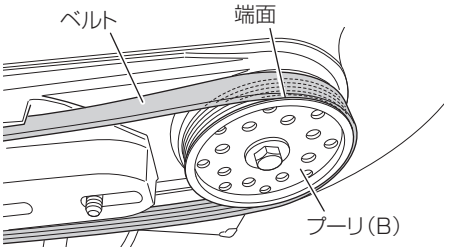
ベルトの取付け方

1 ベルトをプーリ（A）の溝部に掛けてください。



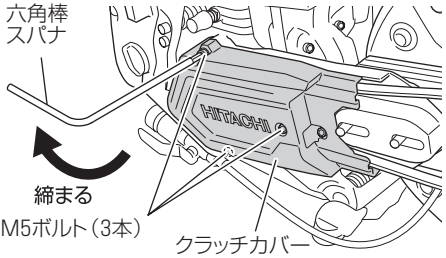
注 **プーリ（A）の溝部とベルトがずれないように注意してください。**

2 ベルトをプーリ（B）の溝部に掛けてください。

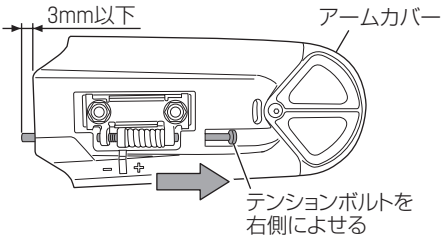


注 **プーリ（B）の溝部とベルトがずれないように注意してください。**

3 付属の六角棒スパナでクラッチカバーをM 5 ボルト（3 本）で取付けてください。



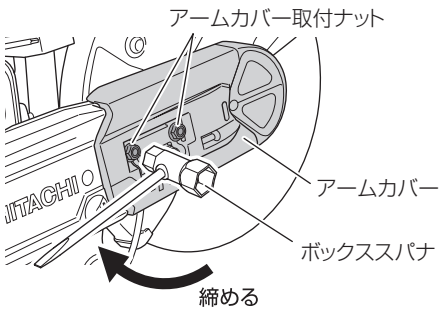
4 テンションボルトを回し、アームカバーからの出張りが 3 ㎜以下となるようにしてください。



5 アームカバーを取付け、アームカバー取付ナット（2 個）を軽く締まる程度に取付けてください。

6 ベルトの張りを調整してください。（P 35「ベルトの張り調整」参照）

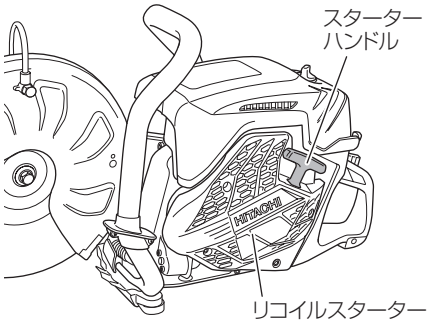
7 アームカバー取付ナット（2 個）をしっかりと締めてください。



●リコイルスターター

⚠警告

危険ですので、リコイルスターターを分解しないでください。
スターターハンドルが軽く引けない場合や、スターターハンドルを引いてもエンジンが始動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



●マフラー

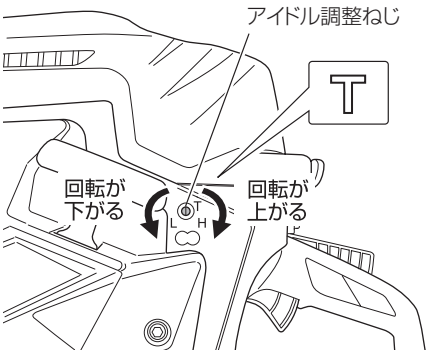
長時間運転しますと、マフラーの排気口の内部にカーボンが付着し、出力低下の原因になります。針金などで清掃してください。

●気化器

- 気化器の調整は、工場出荷時に済んでおりますので、アイドリング回転数の調整以外は行わないでください。
- アイドリング回転数が高すぎるとき（スロットルレバーを放した状態でダイヤモンドカッターや切断トイシが回っているとき）または低すぎるとき（スロットルレバーを放した状態でエンジンが停止するとき）は、アイドル調整ねじで調整してください。

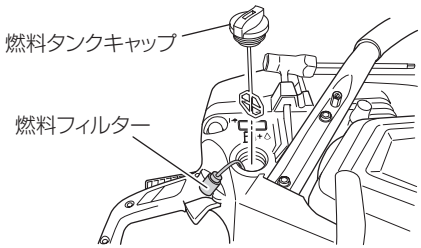
  右に回すと回転数が上がります。
  左に回すと回転数が下がります。

  アイドリング調整範囲はダイヤモンドカッターや切断トイシの回転が止まり、エンジンが停止しない範囲に調整します。



●燃料フィルター

- 燃料フィルターがつまると燃料が供給されず、エンジンの回転不調の原因となります。
- 汚れているときは、針金などで燃料給油口から引出して清掃してください。（汚れのひどいときは交換してください）



●点火プラグ

- 点火プラグは指定のものを使用してください。（P 12「仕様」参照）
- 最良の運転状態では点火プラグの電極が茶褐色に乾燥しています。
  電極のすき間は 0 . 6 ㎜です。
- カーボンが付着している場合は、ワイヤブラシなどで清掃してください。
- 点火プラグ取付け時は、まず指でねじこみ、最後に付属のボックススパナで締付けしっかり取付けてください。

注 **点火プラグをはずすときは、エンジン内部にごみが入らないように注意してください。**

1 クリーナーカバーノブをゆるめてクリーナーカバーをはずしてください。

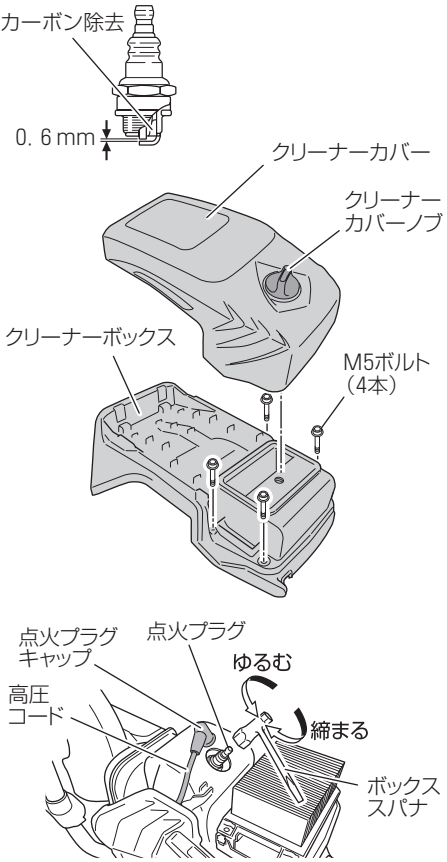
2 M 5 ボルト（4 本）をゆるめ クリーナーボックスをはずしてください。

3 点火プラグキャップを引き抜いてください。

4 ボックススパナで点火プラグをはずしてください。

⚠ 警告

機体金属部に点火プラグを接触させ、スターターハンドルを引くなどの火花チェックはしないでください。
感電や燃料などへの引火によるけがや火災の原因になります。



●エアフィルタ

エアフィルタが汚れ、目づまり状態になると、出力低下や始動困難などエンジン不調の原因になります。
作業終了時には、次の手順で掃除してください。

プレフィルタ

1 クリーナーカバーノブをゆるめ、クリーナーカバーをはずしてください。

2 クリーナーカバーから、プレフィルタを取りはずしてください。

3 プレフィルタは軽く叩いたり、エアーを吹いたりしてごみやほこりを落としてください。

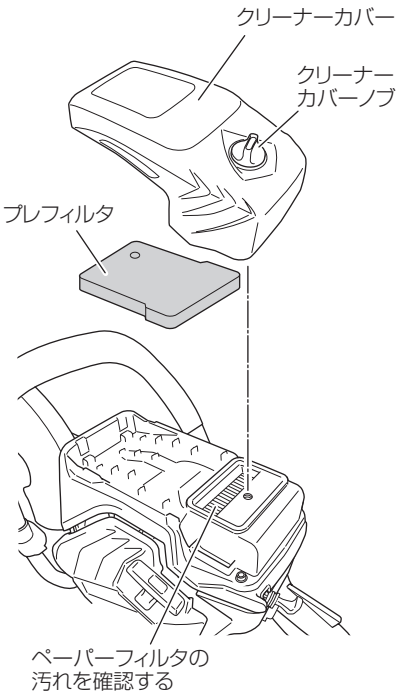
汚れがひどい場合は、石けん水でよく洗った後、よく乾燥させてください。

4 プレフィルタをクリーナーカバーの枠にはめ込んでください。

注 **フィルタを正しい位置に取付けないとエンジンが故障する原因になります。**

5 ペーパーフィルタの汚れを確認して、汚れがひどいときは、右ページの手順で掃除します。

6 クリーナーカバーノブを締付け、クリーナーカバーを取付けてください。



ペーパーフィルタ・ナイロンフィルタ

プレフィルタの清掃の際、ペーパーフィルタの汚れ具合を確認します。
汚れがひどいときは、次の手順で掃除します。

1 M 5 ボルト (4 本) をゆるめ、ペーパーフィルタがはずれないように注意して、クリーナーボックスを静かにはずしてください。

2 ごみが内部に落ちないように注意して、ペーパーフィルタ、ナイロンフィルタをはずしてください。

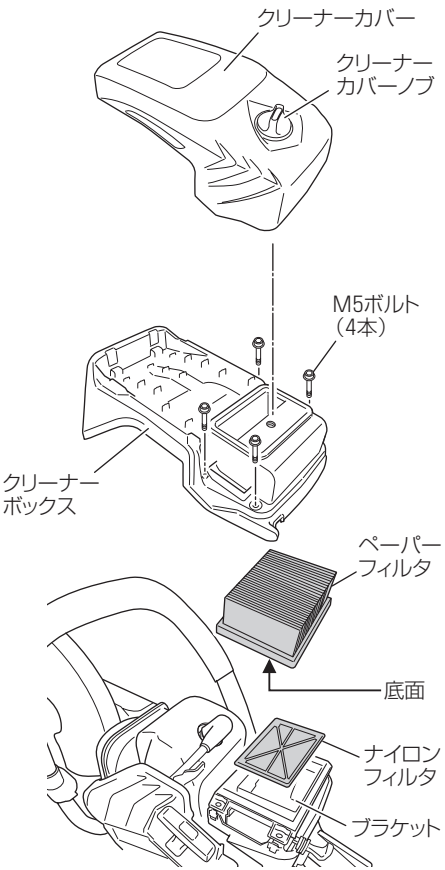
注 **ペーパーフィルタは水洗いしないでください。**

3 ペーパーフィルタやナイロンフィルタは、軽く叩くかエアーを吹いてごみやほこりを落としてください。

エアーを吹く場合はペーパーフィルタの底面からエアーを吹きつけてください。

4 逆の手順で、全ての部品を取付けてください。

注 **ナイロンフィルタを掃除するときは、エンジン内部にごみが入らないように注意してください。**

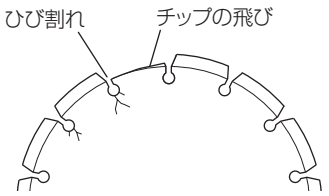


●ダイヤモンドカッターや切断トイシ

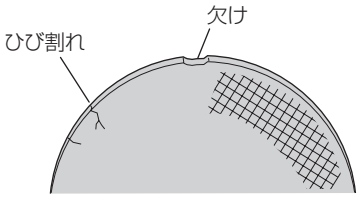
⚠警告

切れ味の悪くなったダイヤモンドカッターや切断トイシはそのまま使用しないでください。
無理して使用すると、切断時の反発力が大きくなり、けがの原因になります。

注
- **切れ味が悪くなったままのダイヤモンドカッターや切断トイシを使用すると、作業時に腕にかかる負担が増えます。また、エンジンに無理をかけることになり、機械の燃費や寿命にも悪影響を与えます。**
  切れ味が悪くなったダイヤモンドカッターや切断トイシは、早めに新品と交換してください。
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシを点検する前に、エンジンを必ず停止してください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシの点検時は、手袋を着用してください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシのひび割れ、欠け、曲がり、摩耗など異常がないか点検し、異常がある場合は新品と交換してください。**
- **フランジワッシャ、ホイルワッシャは消耗品です。摩耗が激しいときは必ずお取替えください。摩耗の加減が分からない場合は販売店にご相談ください。**
- **ダイヤモンドカッターや切断トイシの交換は、必ず取付け金具（フランジワッシャ、ホイルワッシャ、取付ボルト）表面についた汚れやごみを取除いた後に行ってください。汚れやごみがついたまま取付けると、ボルトがゆるんだりして危険です。ご自身で正しく取付けられないときは、販売店にご相談ください。**



【ダイヤモンドカッター】



【切断トイシ】

保管方法

- 保管時は本体からダイヤモンドカッターや切断トイシを取りはずしてください。
- 各部を十分に掃除し、金属部には さびないように 2 サイクル専用オイルを薄く塗ってください。
- 長期間（1 ケ月以上）保管するときは、燃料タンクから燃料を抜き取ってから自然に停止するまで空運転し、気化器の中の燃料を完全になくしてください。
- 点火プラグをはずし、シリンダの点火プラグ取付穴から少量の 2 サイクル専用オイルを流し込み、スターターハンドルを数回引きオイルが行き渡るようにしてください。
  点火プラグをもと通りに取付けてください。
  作業時に、油滴などが飛び散ることがありますので、保護メガネなどで目を保護してから作業してください。
- スターターハンドルを引っ張って圧縮のあるところ（重くなったところ）で止めてください。
- 損傷個所がある場合は、必ず修理してから保管してください。
- ホコリ、湿気のない乾燥した、また温度が 50 ℃以上にならない場所に保管してください。
- 子供の手の届かない場所に保管してください。
- 燃料は屋内の火気の心配のない、冷たい乾いたところに、ガソリン専用の容器にいれて保管してください。古くなった燃料は故障の原因となりますので使用しないでください。
- ダイヤモンドカッターや切断トイシは、乾燥した湿気のない場所で水平にして保管してください。特に切断トイシを湿気のある場所で保管すると強度の低下や歪みが生じ、破損につながります。

故障診断

⚠警告

- 修理に使用する部品は必ず指定の純正部品を使ってください。
- 点検の際は、必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。

注 「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

状況		原因	対策
エンジンがかからない	【燃料関係】	燃料タンクに燃料がない、または少ない	正しい混合比（25～50：1）の燃料を入れる
		気化器に燃料が入っていない	燃料タンクに燃料を入れ、プライミングポンプを10回押す
		燃料タンクに古い燃料が残っている(異臭)	新しい燃料に交換する
		燃料を吸い込みすぎて、点火プラグが濡れている	1．点火プラグをはずし、乾かす 2．スターターハンドルを5～6回引いて余った燃料を出す 3．点火プラグを装着する「点火プラグ」参照 4．チョークレバーを運転(開)の位置にし、スターターハンドルを引く
		燃料フィルタにごみが詰まっている	燃料フィルタを清掃する
		燃料パイプが折れ曲がっているまたは、はずれている	販売店に相談する
		気化器の不調	販売店に相談する
	【電気系統】	ストップスイッチのリード線がショートしている	販売店に相談する
		点火プラグが汚損している	交換または掃除する
		点火プラグの電極に燃料がかぶっている	取りはずして乾かす
		点火プラグのギャップが広い	0.6㎜に修理する
		高圧コードと点火プラグの接続が悪い	接続を直す
		電気系の異常	販売店に相談する
	【その他】	マフラーの排気口にカーボンが詰まっている	掃除する
エンジンはスタートするがすぐ停止する 停止しそうになる	【燃料関係】	燃料タンクに燃料がない、または少ない	正しい混合比（25～50：1）の燃料を入れる
		燃料タンクに古い燃料が残っている(異臭)	新しい燃料に交換する
		2サイクル専用オイルが混合されていない	販売店に相談する
		チョークレバーが始動(閉)位置になっている	チョークレバーを運転(開)の位置にする
		燃料系統に空気が混入する	燃料パイプや継手の接続を直す
		気化器の不調	販売店に相談する

状況		原因	対策
エンジンはスタートするがすぐ停止する 停止しそうになる	【電気系統】	点火ミス ●点火プラグの不良	新品と交換する
		●電気系の異常	販売店に相談する
	【その他】	エンジンのオーバーヒート ●点火プラグの番手違い	指定品に交換する「仕様」参照
		●シリンダーまわりのごみづまり	掃除する
		エアクリーナーの汚れ	掃除する
		カーボンづまり（マフラー排気口）	掃除する
		圧縮不足（ピストン、ピストンリング、シリンダー）	販売店に相談する
リコイルスターターが引けない		リコイルスターターの故障	販売店に相談する
異常振動が出る		ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け不良	正しく取付ける 「ダイヤモンドカッターや切断トイシの取付け」参照
		ハンドル、その他の締付け部のゆるみ	チェックして増し締めする
		ダイヤモンドカッターや切断トイシの曲がり、または破損	新品と交換する
エンジンはかかっているが刃物が動かない 動きが悪い		ベルトがゆるんでいる	ベルトの張り調整する
		ベルトが張り過ぎている	
		ベルトがプーリからはずれている	ベルトを正しく取付ける
切れ味が悪い		ベルトがゆるんでいる	ベルトの張り調整をする
エンジンが停止しない		ストップスイッチの異常	・チョークレバーを始動（閉）の位置にして、エンジンを停止する ・直ちに使用を中止して、販売店に相談する

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　月　日	製造番号(NO.)
販売店（TEL）	

全国営業拠点

お客様相談センター　※土・日・祝日を除く　9：00～17：00

●フリーダイヤル
0120-20-8822

※携帯電話からはご使用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 896-1740	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 5733-0255	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■ 営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/sales.html

WEBにアクセス

右の QRコードをバーコードリーダー機能付きの携帯端末より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

日立工機株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号（品川インターシティ A 棟）
営業本部　TEL（03）5783 - 0626（代）
電動工具ホームページ──http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

部品コード　E99701004 NA